

新版へのまえがき

本書『日本外交の論点』の初版が刊行されたのは2018年2月であった。あれから6年ほどの歳月が流れたことになる。この間、『日本外交の論点』は増刷を重ねて、多くの学部生や院生たち、外交の実務に携わる人たち、そして一般の人たちにも手に取っていただいた。お褒めの言葉をいただいたことがある。「議論が盛り上がるので、ゼミで教科書として使用している」と。お叱りを受けたこともある。「結局どうしたらよいのか。答えを教えてください」と。どちらも、編者らが望んでいた反応である。大変ありがたく、感謝している。

とはいえ、刊行からずいぶんと時間が経った今、『日本外交の論点』で示された論点やその内容にはアップデートが求められているだろう。わかりやすい例をあげれば、初版は2022年2月にロシアが開始したウクライナ侵攻以前の世界を取り扱っている。はたして、ロシアによるウクライナ侵攻は日本外交にどのような影響を与えているのだろうか。さらにいえば、初版が世に出された際、核兵器禁止条約はまだ発効していなかった。同条約の発効を受けて、日本外交は今後どのように展開していくべきなのか。

そこで、新版『日本外交の論点』は、初版で取り扱ったテーマやイシューを見直し、とりわけ集団的自衛権、領土問題、核軍縮の項目については大幅に改稿した。また新版では、北朝鮮の核・ミサイル問題、経済安全保障（初版の「輸出管理」を改編）、宇宙政策という新たな項目を設けている。けれどもその分、総頁数に限りがあることから、初版で取り上げた北朝鮮の拉致問題、歴史認識、テロリズム、グローバル・コモンズの項目を新版では割愛せざるをえなかった。むろんそのことは、これらの項目が現代の日本外交にとって重要ではないということを意味しない。

『日本外交の論点』は、立ち止まって、日本外交のいまとその来し方を振り返る。そして日本外交をめぐる思考の相対化を読者に迫るとともに、そのあり方を考えるための議論の学術的土台を提供する。初版であれ新版であれ、そのような心組みで、『日本外交の論点』は編まれた。

2023年12月 編者を代表して

佐藤史郎・川名晋史